



西覚寺だより

第十五号

春季彼岸会のご案内

● 日にち 三月 二十一日 (月・祝)

時間 午後一時半 ～ 午後三時頃まで
内容 お勤め(正信念仏偈六首引き)

落語 演目は「寿限無」
法話 住職
・ 講題「阿弥陀様は無量寿」
御文章「易往無人章」

● 落語

三浦充喜さん
三浦さんは、蒲郡在住のアマチュアの方です。住職の大学時代の同級生で、三浦さんは「落語研究会」に在籍されていました。

● 寿限無
どんなお話？

ある夫婦の間にこどもがうまれたが、なかなか名前が決まらない。そこでお寺の和尚さんに名前を付けてもらいにいくが、誰よりも長生きする名前を考えているうちに：

● 持ち物

不織布マスク着用！
経本、お念珠、
門徒式章(お持ちの方)、
御仏前(受付にお渡し下さい)
みなさま、ぜひお参り下さい!!



他のお寺での布教のご縁を頂きました。



四年ほど前からいろいろと試験を受けて、何度か京都に行って、そして三年前に「本願寺派布教使」を拜命し、それから布教使として、少しづつお寺様によんで頂いて布教をするご縁を頂戴するようになりました。

昨年もお縁を頂戴し、出向させて頂きました。名古屋別院での布教使研鑽法座に始まり、岡崎市願照寺さま、幸田町圓宗寺さま、豊橋市勸正寺さま、三重県津市光蓮寺さま。

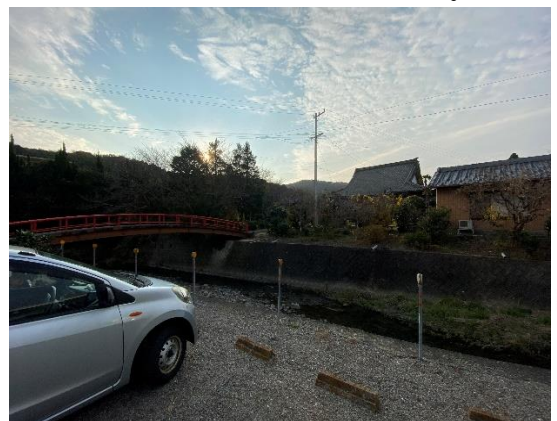
そして、今年に入ってから、岡崎市聖善寺さまと、多くのお寺様にお声をかけて頂き、お育て頂きました。もったいない、ありがたいことです。

他のお寺様でお話するのは、西覚寺の皆様の前でお話をするのとは、やはり全く勝手が違うので、都度々々、学ばせて頂く事ばかりです。力不足、勉強不足を痛感することもあります。

でも、どのお寺様のご門徒様も、「うんうん」と頷きながら、「なんまんだぶ」とお念仏お称えされながら、あたたかな雰囲気、で法話を聞いて下さいます。そのご門徒様の姿に助けられながら、浅学若輩の私も精一杯、お取次ぎ(阿弥陀様のお救い・おはたらきを皆様にお伝えすること)をさせて頂けたことです。

今年もすでにご縁を頂いているお寺様があります。三重県四日市市圓光寺さま、三重県川越町光輪寺さま、そして、岡崎市宇頭市の聖善寺さま。

私より学びが深い方、私よりお話が面白い方、私より人を惹きつけるお話をされる方なんてゴロゴロいらっしやる中、私にご縁を下さったお寺様です。もったいないことです。そういった他の布教使の方から学ばせて頂く事は勿論大切ですが、変に自分と比べても仕方ないです。どのお寺様でも、様々なご縁の中、いまの私が頂いている阿弥陀さまを、大切にお話させて頂こうと思えます。



幸田町 圓宗寺さま



第二子が生まれました。



昨年末から今日までにお会いしている方には、基本的には直接ご報告していますが、まだご報告できていない方もいらっしゃるので、この紙面を借りて改めてご報告させていただきます。

2021年11月18日 0時01分

第二子が生まれてきてくれました。性別は男です。基本的にご門徒のみなさまは、寝耳に水かと思えます。そこは申し訳ありません。連れ合いの妊娠がわかってから、ずっと家族以外には黙っていました。コロナ禍ということ、また他の様々な事情に鑑みて、夫婦でそうしようと決めました。

でも、こうして無事生まれてきてくれて、皆様に晴れて報告することが叶い、とてもありがたいことです。

さて、第二子の名前ですが、

『方（あたる）』

としました。

なかなか読み慣れない読み方かもしれませんが、漢字辞典に載っていた読み方です。なぜこの名前をつけたかと言いますと、この「方」という漢字の成り立ちが素晴らしいなあ、と思ったからです。私の手持ちの漢字辞典にはこう書いてありました。

「二そうの船をならびつらねて作った船。二そうの舟とその先頭部をまとめた形に象る。」

これを読んで、二つの舟が同じ方向を向いて進んでいく姿が思い浮かびました。とてもありがたい姿に感じました。

「あなたの人生、決してひとりではありませんよ。必ず同じ方向を向いて歩んでくれる人がいますよ。親、友人、そして将来はそんな連れ合いさんを見つければいいですね。そして、もうお一方、あなたの人生とともに歩んでくださる方がいらっしゃると思いますよ。そのお方のお名前は「阿弥陀さま」といいます。阿弥陀さまは、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏と、あなたのもとへ飛び込んできてくださっていますよ。阿弥陀さまもずっと一緒にいますよ。あなたの人生、決してひとりではありませんよ。」

【 !! お願い !! 】

さて、息子が生まれたことで、ひとつ皆様に大切なお願いがあります。私たち夫婦から、そして住職としても同じお願いです。

息子の「方」ばかりに、「跡継ぎ」や「将来の住職」等、そう思わないで頂ければと思います。そういう声を掛けるのもやめて頂きたいと思っています。

理由は、私達住職夫婦としては、上の娘も下の息子もどちらも同じように大切に、上の娘が継ぎたいと言えば、そうしてもいいですし、下の息子が継ぎたいと言えば、そうしてもらいます。女性だから、男性だから、とは全く考えていません。

例えば息子ばかりに、周りの人が「跡継ぎ」と声を掛けることは、今はまだ小さいのでよくわからないかもしれませんが、成長するにつれて必ずどちらかが「傷つく」ことになります。それは避けたいのです。

それに上の娘の名前は「相（そう）」です。姉弟そろって、「相方（あいかた）」となります。狙ったわけではありませんが、ならば願わくは、姉弟協力して、将来の西覚寺を盛り立ててくれれば、とも思っています。

そもそも、将来どちらかが「継ぎたい」と思ってもらえるようなお寺でなければなりません。住職の責任は勿論ですが、それにはご門徒の皆様のお寺への関わり、ご信仰が必要不可欠です。

◆ 住職の一言コーナー ◆

様々にご家族とお話をする中で、よく耳にする言葉があります。「仏事のことよくわからなくて、すいません。」

これは何も謝られることではありません。むしろ、ご門徒の皆様がそう思わせてしまっているのは、こちら（お寺）の責任です。

そもそも、阿弥陀様のこと、そしてそれにまつわる仏事のことをお伝えするのが、僧侶の役目です。ただお経をよんで雑談をして帰るのではありません。

わからないことを謝らないでください。謝るのはこちらです。わからないことは、「わからないから教えてくれ」と強気に言ってください。

あと、わからないからといって、近所や親戚の知った風な人（僧侶ではない素人さん）に話を聞いたり、ネットやテレビの情報を鵜呑みにするのはやめてください。加えて、その素人さんの意見を重宝して、専門家（僧侶）の意見に耳を貸さないのは困っちゃいます。この世界でも同じです。専門的なことは、その筋の専門家に聞く、それが一番正しい方法です。



浄土真宗本願寺派
西覚寺

安城市朝日町12・8

0566・76・3594

<http://saikakuji.sakura.ne.jp/wp/>